

# 尾村利成県議が県政報告会を開催

島根県議会最終日の17日、尾村利成県議の県政報告会が開催されました。この日、松江市議会も終了し、党市議団も市政報告を行いました。

3市議は、11月議会の前進面として、教育条件の整備をめざす2つの意見書が採択されたこと、一般質問で憲法・平和、原発問題等を取り上げたことを報告しました。

続いて尾村県議は、丸山知事が突然打ち出した少人数学



報告する尾村県議

## 原発ゼロをめざす島根の会学習会

### 高レベル放射性廃棄物は増やさない、埋めない

15日(日)、県民会館で、原発ゼロをめざす島根の会主催の学習会が行われ、山内靖喜島根大学総合理工学部名誉教授が講演しました。

ゼロの会共同代表の山崎泰子氏の開会あいさつに続いて山内名誉教授が「高レベル放射性廃棄物は増やさない、埋めない」と題して講演を行いました。

山内教授は、「特定放射性廃棄物の最終処分に関する法律」で、「最終処分」は、地下300m以上の深さに埋設・処分することと定義されたが、300mの科学的根拠は示されていないと指摘し、「10万年間絶対安全という保証はなく、新たな安全神話という他ない」と力説されました。

参加者からの質問の後、最後に、岡崎由美子共同代表が、学習等の活動を継続しようとして閉会挨拶を行いました。

## 2020年は党大会の年

### 県・地区党会議開催

2020年1月14日から5日間にわたり、日本共産党第28回党大会が3年ぶりに開催されます。この大会成功のため、12月8日には東部地区党会議、22日には県党会議が開かれ活発な討論が交わされました。

党大会では、「中国はもはや社会主義をめざす国とは言えない」と明確に位置付けて、「発達した資本主義国での社会変革が社会主義・共産主義

教職員組合の村上一執行委員長が、「教職員や保護者の声も聞かず改悪することは許せない。一年一組16人と二組15人の一年生が、この改悪で、31人の一学級となってしまう、子どもと教育に計り知れない悪影響が出る。」と訴え、2月県議会に向けて、島根が誇る「全国一の少人数学級編制基準」を守る運動を呼びかけました。



講演する山内名譽教授

# 『ようこそ滞納していただきました条例』の理念を学ぶ

## 滋賀県野洲市の視察を通して

### 市議会議員 田中はじめ

11月21日、滋賀県野洲市を訪問し、野洲市が先進的に取り組んでいる、「生活に困りごとや不安を抱える市民への支援の取り組み」を学びました。

以前に「新しい松江」でも紹介しましたが、野洲市は、「ようこそ滞納していただきました条例」という、いささかショッキングな通称を持つ、正式名称「債権管理条例」を平成27年に制定しています。

市税や給食費、水道料金など「滞納」を、「市の主人公である市民が困っているサインを出してくれた」ととらえ、行政が生活自立を支援することを内容とした条例です。

#### 差し押さえによる一時的な効果より、生活再建で長期的な納付を実現

#### 条例制定の効果について

平成28年から平成30年までの一人当たり差し押さえ額が約7万円なのに対し、多重債務整理による生活再建で税金等へ充当した平均額が3倍以上の23万6千円に上るといいうデータも示され、差し押さえによる一時的な回収よりも、生活再建による長期的な納付がより効果的であると説明がありました。

条例制定に至る経過について、

△平成16年頃、社会問題になった多重債務者問題に取り組み、平成21年から本人同意に基づき個人情報共有による支援を始め、消費者ローンの過払い金を1億8千万円取り戻し、その内1千8百万円が市税等の滞納への納付に回ったこと、

◇多重債務に陥っていた市民も、毎月の10万円以上の返済がなくなり、生活再建につながったなどの経験の積み上げがあること、

◇その積み上げが生かされ、自己責任論を乗り越えて、執行部・議会挙げての条例制定につながった経過があることがわかりました。

#### 相談に出来ない・来れない市民の困りごと、どうやって相談にのるか

#### 相談にのるか

松江市でも生活困窮者支援の取り組みは積み上げられています。しかし、困っている市民ほど「相談しにくい、できない」実態も多く、「相談に出来ない市民の困り事をどう支援するか」が課題です。野洲市の知恵と経験は、松江の生活困窮者支援の取り組みをさらに前進させると強く感じました。



野洲市の担当者から説明を受ける